

## 2 人

## 今後の電源市町村の観光振興へ向けて

羽田 耕治



## 今後の電源市町村の観光振興へ向けて

横浜商科大学 商学部貿易・観光学科 教授

羽田 耕治

着地型旅行商品が注目されてきた背景には、旅行者ニーズの多様化、高度化、一方でそうしたニーズに情報入手・商品開発で的確に対応しにくい旅行会社側の事情がある。既存の観光地においても多様化、高度化する観光客ニーズへの対応が不十分で、魅力的な観光体験プログラムが不足しており、それが観光入り込みの減少につながっている。そこで、地域資源を新しい観点から捉え直し、活かしていく観光

## 着

地型旅行商品開発に地域の関心がとみに高まっている。(財)電源地域振興センターが実施している「観光現地指導会」事業への参加申し込み状況を見ても、この着地型旅行商品開発に関わる案件が目立っている。従来、旅行会社の商品づくりは、発地(市場)側で商品企画・造成・販売をするものであり、歴史的に「発地型」であるため、「発地型旅行商品」という言い方はしなかった。これに対して、旅行者の着地である地域の側が主導してつくる旅行商品として注目されてきたのが、「着地型旅行商品」である。

振興方策が求められてきている。その有力な方策の一つが着地型旅行商品開発なのである。そこでの主たるテーマは、エコツーリズム、グリーンツーリズム、産業観光、ヘルスツーリズム、滞在型・暮らし体験型、まち歩きなどで、商品化のキーポイントは、「地域密着・地域連携・地域協働」、「多様な地域資源の多様な活用」、「人との触れあい(ガイド、インストラクター、住民)」、「学び」である。

着地型旅行商品は、地域における新たな観光魅力づくりと新たな観光顧客の獲得、滞留・滞在利用の促進と観光消費機会の増大、地域資源の多彩な活用による農林漁業、商工業の活性化の促進、地域における新たな観光ビジネスの起業、コミュニティビジネスとしてのガイド業の展開といった可能性を有している。自然、生活文化、そして発電所をはじめ農漁業などの産業に恵まれた電源市町村こそ、この着地型旅行商品開発に積極的に取り組んでもらいたい。そのための人材育成、組織づくりを急ぎたいものである。

## 3 Pick Up!

## 世界初“建物のない美術館”で未来へ前進

高知県 黒潮町

## 8 ふるさと応援団

## (株)土澤まちづくり会社

岩手県 花巻市東和町土沢地区

## 10 いきいき電源地域

## いいだ人形劇フェスタ

長野県 飯田市

## 大湊ネブタ祭り

青森県 むつ市

## 12 センター掲示板

- ・相談窓口のご案内
- ・「エネルギー人形劇」上演のお知らせ
- ・「エネルギープラザ2007」開催のお知らせ
- ・平成19年度下期原子力発電施設等周辺地域企業立地支援給付金について
- ・「新潟県 柏崎市・刈羽村 震災復興事業」を実施しました
- ・「夏休み親子体験学習会2007 in 東京」を開催しました
- ・Vol.8 読者の声から
- ・人事往来
- ・お知らせ
- ・読者プレゼント

## 16 電気のふるさと製品自慢

## 平田赤ねぎ

山形県 酒田市

今号の表紙

佐賀水力発電所(四国電力)

最大出力:1.57万kW

運転開始:昭和12年12月